

令和元年度学校経営計画に対する中間評価報告書

令和元年10月30日現在

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
1 生徒の主体的・協働的学習を推進し、アクティブラーニングの視点から、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード、学校研究の継続推進)	① 県工学びのスタンダードを活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「県工 Thinking time」などを通して、根拠をもとに論理的に思考することができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 【改定】 A 60%以上 B 50%～60%未満 C 40%～50%未満 D 40%未満	(教務課・各教科) 中間評価 (A) 学校評価アンケートでは、「先生は考えさせる授業をしている」に対して「そう思う」「ややそう思う」の割合が、68%であり、教科によって少しのバラツキはあるもののおおむね高い評価となっている。今後は、考えたことを発表させる機会を増やすことでよりいっそう考えを深められるような授業のあり方を工夫する。
	② 生徒の主体的な学習を促し、学習の定着を目指す。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【継続】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	(教務課・各教科) 中間評価 (A) 学校評価アンケートでは、「予習・復習・課題に取り組んだ」に対して「出来た」「やや出来た」の割合が、80%であった。 家庭学習用プリントを配布したり、考査前に対策プリントを配布するなど、自宅学習を促進する工夫が多く見られる。生徒の取り組みの状況をしっかりと評価し、それを生徒にフィードバックすることで一層の改善につながると考える。
	③ 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	生徒が主体的に活動することを意識して授業を行っているかどうかを、教師対象の自己評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【継続】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	(教務課・全教員) 中間評価 (A) 学校評価アンケートでは、「している」「ややしている」を合計した割合が、97%であった。 ペアワーク、グループワークを積極的に取り入れ、生徒に自分の意見や工夫を発表する機会を多く与えている効果が出ていると考えられる。また、アクティブラーニングが教員の間に浸透している状況がわかる結果となっている。
	④ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	ICT機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 【継続】 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	(学習情報課) 中間評価 (B) 肯定的な回答は66%であった。ICT機器及びその動作環境の整備が不十分なため、教師が活用に躊躇している点が最も大きな課題であり、改善すべき点でもある。
2 将来の職業人としての意識の高い生徒の育成のため、規範意識やマナーの向上を目指す。(人間力スタンダード、校訓の活用)	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 【継続】 A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満 遅刻者数減少の割合で判断する。 【改定】 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・各学年) 中間評価 (A) 挨拶の励行に取り組んでいる50%、やや取り組んでいる45%で95%の生徒が前向きに取り組んでいると回答した。しかし、学校全体として挨拶が素晴らしいと印象を受けるまでには及んでいない。学級・学科・部活動の3者でしっかり連携をとり、挨拶の励行を徹底していきたい。 (生徒指導課・各学年) 中間評価 (A) 1学期の遅刻者数は93人(昨年度110人)と昨年に比べ約15%減少した。毎月の遅刻状況を全職員が把握している。遅刻者数の多い学級担任には、個別で指導のお願いや、科長・学年主任にも指導のお願いをしている。全校集会、場合によっては学年集会等にも参加し、時間厳守の重要性を指導していきたい。
	② 周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工ものづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 【継続】 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(総務課) 中間評価 (B) 学校周辺美化活動に参加した生徒に回答をもらった。学校周辺美化活動を通じて積極的に地域貢献できたかという問いに、86%が、思う、やや思うと回答した。保護者及び教員の回答である92%及び98%と比べると少し低い。学校周辺美化活動が地域交流につながっていることをしっかりと意識させていきたい。今後のものづくりワールドや除雪作業等の活動を踏まえて判断していきたい。
	③ 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数減少の割合で判断する。 【継続】 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・学年団) 中間評価 (D) 石川県警察本部より毎月送られてくる違反指導件数は、8月末で54件(昨年度37件)。また、交差点での接触事故件数もすでに11件(昨年度3件)と激増している。この結果を受け、臨時の全校集会を開き、交通ルールの遵守を指導したが、十分に自分の問題として受け止めることができている生徒もいる。根負けせず、街頭指導を継続し、生徒に交通ルールを意識させるようにしていきたい。
	④ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができている。教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【継続】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	(生徒指導課・全職員) 中間評価 (A) 学校評価アンケートより「アンテナを高くして生徒の様子を観察し、教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができている」と回答したA評価の割合が40%(昨年度37%)。「やや思う」のB評価を加えたA+B評価では94%(昨年度95%)であった。教師間で生徒の情報交換をさらに効果的なものとし、各学科・学年での生徒に対する観察を常に行いたい。

令和元年度学校経営計画に対する中間評価報告書

令和元年10月30日現在

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
3 専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、各種コンテストに意欲的に取り組み確かな進路実現を図る。(技能スタンダードの推進)	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3学年年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	(進路指導課・3学年年団) 中間評価 (A) 学校推薦者176名のうち、1社目で内定した者が168名で内定率は95.5%であった。面接及び試験対策を強化した結果、県内大手は100%内定している。また、県外大手は例年より5割多い31名が受験したが、29名が1社目で内定しており、良い成果が得られた。
	② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。[継続] A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満	(教務課・工業7学科) 中間評価 (D) 10月現在で、ゴールド3名、シルバー2名、特別表彰0名である。昨年度の同時期は、ゴールド3名、シルバー4名であり、シルバーの数がやや減少したが、ゴールド・シルバーとも例年後期に多くが申請する。現時点での評価はDであるが、後期には達成度が高まると思われる。昨年以上の達成を目指し、生徒に対して申請を怠らないよう働きかける。
	③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7学科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。[継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。[継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。[継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全校レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会] (工業7学科) 最終評価にて実施 暫定 (B) 全国高等学校ロボット競技大会県大会1位(全国大会出場) 高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門県大会優勝、北信越大会敗退 高校生ものづくりコンテスト電子回路部門県大会優勝、北信越大会敗退 高校生ものづくりコンテスト化学分析部門県大会優勝、北信越大会奨励賞(第4位) [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会] (工業7学科) 最終評価にて実施 暫定 (A) 全国ソーラーラジコンカーコンテスト2019優勝、ベストラップ賞 各種コンテスト、コンクール (工業7学科) 最終評価にて実施 暫定 (A) 高校生ファッションコンテストクラフトデザイン部門グランプリ 全国高等学校ファッションデザイン選手権大会(ファッション甲子園) 出場 高校生ファッションデザイン画コンテスト入賞 環境月間ポスターコンクール最優秀賞、優秀賞 愛鳥週間ポスターコンクール最優秀賞、優良賞
4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	各学年の部活動の加入率で判断する。[継続] A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満 県総体の成績等で判断する。個人・団体あわせて) [継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	(生徒会課) 中間評価 (B) 部活動・同好会の加入率は93%とここ最近では最も低い加入率であった。1年生は97%とほぼ例年並みの加入率であったが、特に2年生が加入率の落ち込みが大きかった。担任や顧問を通して再入部や転部等を進めていきたい。 (生徒会課) 中間評価 (C) 全国大会出場部は男子バレーボール部、ボクシング部の2部だけであった。また県高校総体順位も男子総合5位、男女総合6位という結果に終わり、ここ近年では最も低調な結果であった。
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。[改定] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満	(生徒会課) 中間評価 (A) 学校行事の満足度は保護者が多く参加していることもあり97%と概ね高評価だった。今後も生徒が積極的に取り組めるようにし、社会人に必要な協調性等の人間性を育みたい。
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。[継続] A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	(保健課) 中間評価 (D) 現在の歯科受診率は16%でD評価である。早期に受診勧告してきたが、受診率が上がってこなかった。今後、保健室、体育科中心に担任、部活動顧問と連携し、指導を強化していきたい。
5 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	業務改善を着実に進めているかについて、各教科・学科、各課にアンケートを実施し、肯定的評価の割合で判断する。[改定] A 80%以上 B 65%～80%未満 C 50%～65%未満 D 50%未満	(各科・学年・各課) 中間評価 (D) 担当する校務分掌・学科について業務改善が進んでいるかについて、各主任対象のアンケートを実施したところ、肯定的評価は、「かなり進んでいる」が11%、「少し進んでいる」が32%で合計43%しか得られず、D評価である。各主任からは、保存文書の整理、互いにフォローし合えるように話し合いの雰囲気醸成、学年団のバックアップによる担任業務の削減等、今後取り組んでいくべき項目を具体的に挙げており、できるところから速やかに実践し、業務改善を進めていく。